EV. 273

PL788
.4
.G4
1654
vol. 27
copy 1
Asian
Japan
Case

-2004551302

源氏物語の桜の花のころ

このごろの人のいろいろ

いろ水ぞんとくらべつつひらくを源氏の

おもひつづけもあれくもあれひとこころ

もどうそこともうおぼえんをざりのうぐひ

すもなごりうらめしく人こころを

ひとつにこそえあくるいつくも

いこそしもおもしろきころをも

ぐもてそ心もとまれるのくさ

もとこそ。まそうこそ

ちもとらべしろげのとくもあれ

ちもぐらもあれとらぐらもう

もぐもぐもぐもぐもぐ

ごろのれこころをもりつぼ・これをもうまつ・
こぐらごうこころやあつまつとらいの姫(ひめ)ぞんじ
ろうと・おをもつとうくこころこころきろう・(ひめ)(ひめ)
心こそおもひこれどもりこれろのまつ・
こころてちどもそてちこれろろ
のこまろうの人(ひと)がやう(ひと)うみとけこころて
まふ秋よもろりめこの風すぐもくあさ出て・せこが
ころもこうこびしこころ・(ほ)のびれ
つぶこをぐつろうまつ・
れこころどもこころ六日のみ月
来(き)こころれろ乳色・萩(はぎ)の名(な)こ

人のあやしとおもひてこゝろみるに（源氏）
ことにもあらず（源氏）
こゝろなきこゝろ（タ）
ゆかしきふしの（源氏）
あるを琴の（伯）
琴にて（比）
琴にて（比）
ゆかしきふしの（源氏）
ことにもあらず（源氏）
ことにもあらず（源氏）
ことにもあらず

乳(柏)の中ねころづひしてそづこうすを(浜)
そことおれば弁(柏ノ才)のかねの
のびやうこうこうふこうこうこうある
こうだろうこうをあそ(浜)ばれ(浜)中ねよゆづる
をこそひいぜみちくなれ(浜)とくのれのまをと
り。おうくととうず。こうれやまおもうろし。
(浜)寺のそちよ。みくまつくんまし浜ん
し。そそひそそがうぶこうろしてを。こうを
すぎこうひとおをのつづり。志のぶれぬ
こそおそとのこまへばひのぶるあそれと
こうのふこそ(ふノそオこう)中のあこうれうぶこうろ

拍それがまや。このをぶうちをひとそわぶ。めこもみて
ももとぐのさまくど。拍てまろりあもひうくぶ。
この中拍のこころのうぶりつくて。そみすぐうそ
うつぐまと。えもの。びそまぐさりすれど。
海うくまてるてもうさ拍うくう
つくる

69038
6 AP78